発問例

●二三八ページ

問 **「古い記録映画」（15 行目）という例えには、どのような効果があるか。**

答 第二次大戦中の記録映画であるならモノクロの映像であり、「僕」と遠く離れた風景であるという違和感を際だたせる効果。

●二三九ページ

問 **「政治のことは私に聞かないで……ただの駅員です」（3 行目）という駅員の言葉から、どんな組織が暗示されているか。**

答 組織内の人間は歯車のひとつのように与えられた仕事だけをしている。また、「政治」という言葉も、上からの決定に完全に服従させられる体制がうかがわれる。

問 **◉駅員が「早口で言った」のは、なぜか。**

答 中央集権的なシステムに従属している駅員は、職務以外のこと、特に政治に関わるようなことへの言及を避け、自分の感覚や思いで語りかけてくる「僕」を煩わしく感じ、なるべく相手にしたくないと思っているから。

補 機械の修理をしていて忙しいからという答え方だけでは物足りない。ここでは、「僕」が感じつつある孤独の深さについて、駅員の態度と対照させながら捉えておきたい。また、中央集権的な監視社会を想起すれば、職務以外のことは早く切り上げてしまいたい、という思いがあったからともいえるだろう。

問 **駅員が「もっと偉い人に聞いてください。」（8 行目）「中央コンピューターに聞いてください。」（9 行目）と言っている点から、どんな社会であることがうかがえるか。**

答 人間がロボットのように働かされていて、SF 映画に出てくるような、コンピューターに支配された近未来社会。

補 かなり未来化した社会が想定されていることから、「青が消える」という事態も SF 的な設定と受け取れるだろうが、そこでの「僕」の切実な不安を通して、逆に現実感を伴った事態が読者に突きつけられる。

●二四〇ページ

問 **「僕」が、青を失ったまま新しい世紀に入ると「すごくよくないことが起こる」（3 行目）と感じているのはなぜか。**

答 消失した青が見つからなくて焦っており、誰もそれを気に留めていないことで、不安と疑念がますます大きくなっているから。

語句の研究

●二三八ページ

9 ブルーラインの地下鉄　現在の横浜市営地下鉄に同名（平成二十年より使用）の路線があるが、ここではフィクションとして設定されている。東京の地下鉄の路線系統は実際、迷路のように錯綜しているが、ここでは色分けして分かりやすくするという都市計画が想定されているようである。ここから極めて合理的に構成された近未来都市を想像することも可能である。

15 スターリングラードの冬季攻防戦　一九四一年六月に始まったドイツ軍のソ連侵攻は十月のモスクワ攻防戦から一転し、十二月にはソ連の反抗が開始された。翌四二年夏にスターリングラードの半分を占領したドイツ軍は、冬に入ってからのソ連軍の反撃により二か月間の苛酷な市街戦の結果降伏する。この攻防戦の勝利をきっかけに、ソ連の攻撃は波に乗り、ベルリン総攻撃まで続いていくことになった。「僕」がブルーライン地下鉄のブルーがすべて白一色に変わっているのを見たときに、この独ソの熾烈な冬季市街戦の記録映画を思い出すというのも、「僕」の心情の殺伐としたありようをイメージさせる。かなり荒涼とした心象を喚起する比喩である。また、専制政治や全体主義体制を連想させる表現でもある。

●二三九ページ

3 政治のこと　地下鉄の駅員は確かに青が消失したことに気づいているともとれるし、青という言葉を何かと勘違いして動揺しているともとれる。いずれにせよ、ここで駅員は政治のことは私に聞くなとばかり言うが、近未来社会の体制を想像させる言葉である。「中央コンピューターに聞いてください。」というのも同様に、非人間化した社会体制を推測させる。コンピューターの返事からもうかがうことができるように、合理的でないものは認められない社会であり、全体主義的な専制政治が臭う社会ということになろう。

10 私はただ言われたとおりに働いているだけです。　中央集権的なシステムに従属し監視され、上からの決定に完全に服従させられていることがうかがわれる。ただ、そうした体制に従順であれば、ある意味では自分の身分も保障されるのである。目の前の現実について考えようとしない駅員の態度は、青が消失したことにこだわり続ける「僕」と対照的であるといえるだろう。

16 僕の不安はだんだん高まってきた。　もう時計は十一時四十五分を指しており、失われた青の行方と、その理由を求めても得られない「僕」は、いよいよ不安を募らせていく。しかし、「僕」のこの焦燥感は、自分ひとりがことの重大性に気づいており、他の誰もが新世紀のお祝いで何も気づかないということにある。「僕」の孤独感が非常に強まっているのである。

注意する語句

攻防戦…攻めることと防ぐこと。攻撃と防御。（＊で用例を示した）
＊必死の攻防戦を繰り広げる。